

## 重要伝統的 建造物群保存地区

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区は、江戸時代初期から織物のまちとして発展してきた歴史的価値の高いエリアです。織物業で繁栄を極めた頃の姿を今に伝える蔵造りの商家や住宅、織物工場などが街並みに残され、通りを歩けば当時の息づかいが聞こえてくるような臨場感があります。石畳の小路や格子戸、重厚な土壁、黒光りする梁や柱など、一つひとつの建築要素に先人たちの知恵や美意識、そして生活の営みが刻まれています。ここには400年以上にわたり受け継がれてきた織物文化が脈々と流れており、建物そのものが桐生の歴史を語る生きた証といえます。近年では観光スポットとしても注目を集め、四季折々の風景の中で写真映えする美しい街並みを求め、多くの人が訪れるようになっています。織物のまち桐生が誇る伝統と文化の重み、その真価を、ぜひあなたの目と心で確かめてください。



## 電動バス「MAYU」

産官学連携により群馬大学理工学部と地域企業が協力して開発した電動自動車『MAYU』は、環境にやさしく静音性に優れた低速バスです。街の喧騒を忘れさせるような静かな走行音と、ゆったりとしたスピードは、人と街と自然が調和する“ゆっくりズム”の桐生らしさを象徴しています。CO<sub>2</sub>排出を大幅に抑えることで、持続可能な社会の実現にも貢献し、未来世代に誇れる新しい交通の形を示しています。『MAYU』に乗って巡るのは、桐生が誇る歴史や文化の舞台。重要伝統的建造物群保存地区や織物文化に触れながら、ただの移動ではなく学びや発見に満ちた体験が得られます。移動そのものが観光であり学びとなる、この特別な乗り物の魅力を、ぜひあなた自身で体感してください。

## 藍染め体験

桐生は古くから“織都（しょくと）”として栄え、日本を代表する染織文化を受け継いできました。その歴史の中でも藍染めは、人々の暮らしと深く結びつき、生活道具から衣服に至るまで幅広く用いられてきた伝統技法です。現在では熟練の職人たちがその技を守り続け、訪れる人々に体験の場を提供しています。藍染め体験では、布を折り畳み、絞り、染め上げる工程を自らの手で行い、世界にひとつだけの模様を生み出す楽しさを味わえます。藍独特の深い青は、時の経過とともに風合いを増し、持ち帰った作品が生活に溶け込むたびに、体験の記憶をよみがえらせてくれるでしょう。歴史と文化が息づくこの地で、手仕事の魅力と藍の美しさを肌で感じ、自分自身の感性で桐生の伝統を確かめてみてはいかがでしょうか。

